

全国福祉用具専門相談員協会の今後の活動

今後の活動

全国福祉用具専門相談員協会 事務局長 山本 一志



●やまもと・かずし
一九七七年、東京理科大学卒業後、出版社に入社し、科挙雑誌の編集に携わる。一九八七年、株式会社ヤマシタコーポレーションに入社。福祉用具レンタルサービスシステム構築、マニュアル作成、消滅システムの構築などを手がける。一九九〇年、福祉用具流通事業者の全国ネットワーク「エコール協議会」事務局長に就任。二〇〇七年より、全国福祉用具専門相談員協会事務局長も務める。

国際福祉機器展と福祉用具の日

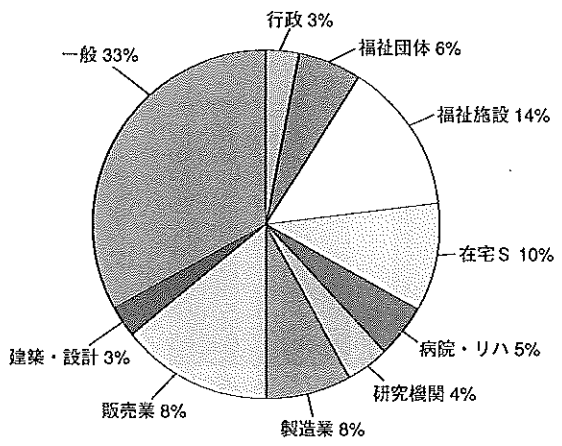
今年度の国際福祉機器展（HCR 二〇〇九）は九月二十九日（火）から十月一日（水）の三日間、東京ビックサイトで開催されます。全国福祉用具専門相談員協会（以後、「ふくせん」と明記）としても、今回初めてブースを出展することになりました。場所は東六号館（六・二〇・〇七）ですので、来場の折はぜひ立ち寄り下さい。
また、今回は十月一日の「福祉用具の日」が、HCRの開催期間と初めて重なります。ふくせんとしても、福祉用具の日は大変重

要な行事ですので、HCRへの出展とは別に、品川区立総合区民会館「きゅりあん」（最寄り駅…大井町駅）で、福祉住環境コーディネーター協会との共催による特別イベントを開催いたします。
イベントの目玉は、協会が開発した福祉用具個別援助計画書です。福祉用具個別援助計画書の普及は、現在、ふくせんとして最も力を入れている事業の一つで、その様式を使った個別援助計画作成の意義を、ぜひ皆さんに知っていただきたいと考えております。福祉用具専門相談員の方はもちろんのこと、ケアマネジャーや専門職の方々のご参加をお待ちしております。

あふたじ

今年のHCRは、狭み込み事故対策を施し、新JISマークの認証を受けた電動介護ベッドを見ることができ、各社を比較する良い機会だ。また、歩行や立ち上りの不自由な方が直接試着する自立支援の福祉用具にも注目したい。全国福祉用具専門相談員協会（ふくせん）はHCRに出展するとともに、十月一日の「福祉用具の日」に福祉住環境コーディネーター協会との共催による特別イベントを開催する。六月には定期総会で、都道府県を単位としたブロック長を任命。既に体制が整った十九都道府県からブロック活動をスタートした。ふくせんが開発した福祉用具個別援助計画書の普及と作成の意義を広めるなど、各ブロックの活動を全国的に展開していくつもりだ。
団全体での評価に結びつけるには、業界全体のレベルアップが必要不可欠である。この命題実現のため、ふくせんは努力していきたい。

HCR2008来場者の内訳



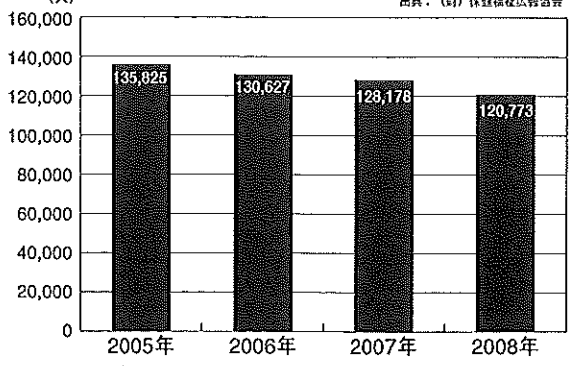
2008年の国際福祉機器展の様子。福祉に関わる様々な人が訪れている。

会場の「きゅりあん」はHCR会場から意外と近く、東京臨海高速鉄道りんかい線の国際展示場駅から徒歩で到着すれば、大井町駅まで十分で到着致します。午前中にHCRを見学いただき、午後、「福祉用具の日」のイベントにご参加いただければ幸いです。ただし、ビッグサイトから国際展示場駅まで少し歩きますが、よい運動になるかとも思います。

今年の国際福祉機器展は

さて、今年で三十六回目の開催となるHCRは、今後どんな福祉用具が世の中に普及していくのか、どんな福祉用具が開発されているのか等、大変重要な情報を一度に収集することができる貴重な機会として、我々、福祉用具専門相談員にとつてなくてはならない展示会です。毎年、全国から多くの福祉用具専門相談員の方が来場されていると思いますが、その数は統計がありませんのでわかりません。ちなみに昨年の来場者比率は上図（財団法人保健福祉広報協会発表）の通りです。

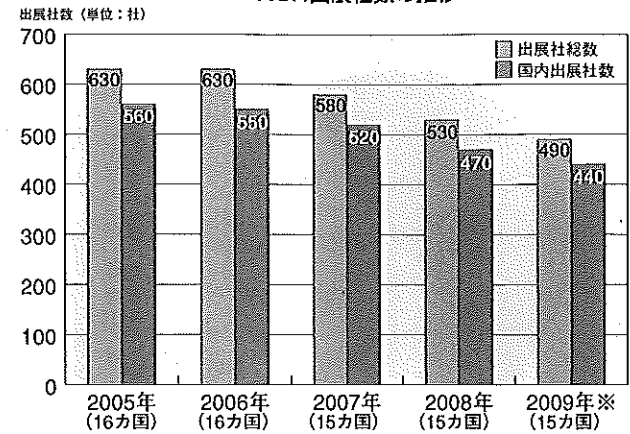
HCR来場者数の推移



また、過去四年の来場者数の推移は、左図の通りです。残念なことに若干の減少傾向にあり、昨年は約十二万人でした。しかし、十二万人の方が来場されたとも言えると思います。福祉用具の世界は、日進月歩しています。新しい情報を手し、その福祉用具をどんなご利用者に、どんな生活環境の中でご利用いただくか、常に考えて

HCRは重要な情報を一度に収集でき、福祉用具専門相談員にとって欠かせない展示会

HCR出展社数の推移



出典：(財)保健福祉広報協会 ※2009年は7月1日現在の出展社数

今年のHCRの注目点は、新JISマークの認証を受けた電動介護ベッド

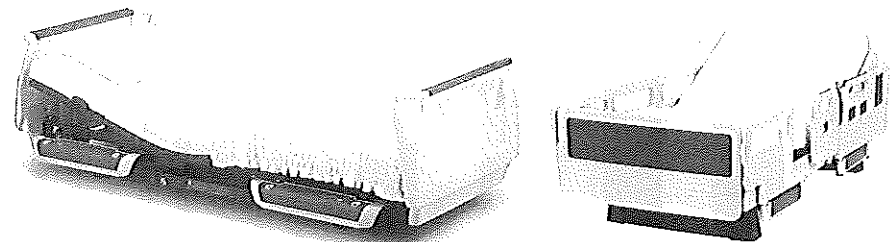
傾向が感じられます。その結果、全国的にはHCRに来なければ、一度にすべての商品を見ることができなくなっているのが現実です。

上図は、出展社数の過去五年の推移です。こちらにも来場者数と同様、減少傾向にあります。今年度は四百九十社の出展だそうですが、やはり世界同時不況の影響が感じられます。会場のビッグサイトも、昨年は東の1一六号館での開催でしたが、今年は一号館での開催はありません。しかし、これも、すべての展示を見ようと思えば、一日では見切れないと思います。

新たな福祉用具の方向性と福祉用具専門相談員の責務

その中で今年の注目すべき特長は、新JISマークの認証を受けた電動介護ベッドのほとんどを見ることができるところでしょう。それぞれ狭み込み事故対策を施した各社のベッド(下写真)を比較する良いチャンスかと思えます。それと同時に我々、福祉用具専門相談員は、既存のベッドをご利用いただいている方に向けても、事故を未然

挟み込み事故や転落事故に対して安全性を高めた新しいJIS規格の認証を取得した電動介護ベッドが各社から続々と発売されている。



パラマウントベッド株式会社が開発した超低床タイプの介護用電動ベッド「楽匠Sシリーズ」。

株式会社モルテンの介護用電動ベッド「インプレス」。

に防ぐためのいろいろなアクションを実施していくことが大切です。隙間を塞ぐ補助キッドの取り付けや使用方法の再確認等、きちんと訪問して対応することの必要性が高まっています。ご利用者の皆さんの福祉用具専門相談員への信頼獲得のためにも、我々一人ひとりの責任は大変重く、安全で安心して在宅生活をしていただけるように、努力を続けていかなければなりません。

さて、今回のHCRで、福祉用具専門相談員にとっても興味のある福祉用具が出展されるようです。最近あちこちで聞くようになってきました介護用ロボットです。しかし、福祉用具としての方向性は多様です。癒し系のペットロボット、自動掃除ロボット、介助者が装着するパワーツーツ等、多方面に開発が行なわれています。

その中で特に、歩行や立ち上がり等が不自由な方が直接装着されて、効果を発揮する福祉用具があります。SYBERDYNE E(株) / 大和ハウス工業(株)の「ロボットストーツHAL」や木田技研工業(株)の「リズム歩行アシスト」などが、そのジャンルに当たります。要介護者の自立支援が介

護保険の目的でありますから、まさに自立された生活実現のための福祉用具だといえるでしょう。在宅でのご利用が今すぐは無理だとしても、福祉用具専門相談員として体験しておきたいアイテムと考えられます。可能であれば、HCRの会場でぜひ体験して、その効果を体感したいものです。

全国各地でブロック活動を

今年度のふくせんの定期総会は六月二十三日(火)に、東京の弘済会館で開催されました。その中で、全国の都道府県をブロックとした地域活動の実践を目指し、ブロック長を任命させていただきました。今回は既に体制が整った十九都道府県からブロック活動をスタートします。今後、体制を整え、ふくせんが開発した福祉用具個別援助計画書の普及と、その様式を使用した個別援助計画作成の意義を広めていきたいと考えています。

そのための研修会の開催を、各ブロックで実施していきます。実施するためには、各ブロックで活動する福祉用具専門相談員

「全国福祉用具専門相談員協会」会員募集要項



(1) 会員資格

- ① A会員 / 福祉用具専門相談員指定講習の修了者であって、本会の目的に賛同した者。
 - ② B会員 / 専門的有資格者(保健師、看護師、准看護師、理学療法士、作業療法士、社会福祉士、介護福祉士、義肢装具士、ホームヘルパー2級課程修了者)であって、本会の目的に賛同した者。
- (2) 会費：年会費はA会員、B会員とも1万円です。なお、入会金は無料です。
- (3) 入会申し込み：下記、連絡先にお問い合わせ下さい。

【連絡先】 全国福祉用具専門相談員協会

〒108-0074 東京都港区高輪3-19-20 高輪Oビル9階

電話：03-3443-0011 FAX：03-3443-8800 ホームページ：http://www.zfssk.com

歩行や立ち上がりの不自由な方が直接装着して、自立を支援する福祉用具にも注目



福祉用具専門相談員を国全体から評価してもらっているには、業界全体のレベルアップが必要不可欠

への声掛け、ケアマネジャー等の他職種の方々との連携、そしてブロック内で、講師やコーディネーターができる人材の育成も必要になります。

福祉用具サービスでも個別援助計画書作成の必要性は、当協会の理事でもある(株)カクイックスウイングの岩元社長が、十四ページで述べられている通りです。そして、他職種の方との共通言語として利用されるようになれば、福祉用具の有効利用がさらに促進されると思います。このように在宅療養されている方、また介護されている方にとって、質の高い生活環境実現のためにも、全国での各ブロックの活動を積極的に実施していくつもりです。

次回の介護保険 改定作業に向けて

平成二十一年度(二〇〇九年度)の介護保険改正がスタートしたばかりのこの時期に、次回の改正について考えるのはいささか早いと思われる方もいるかと思えます。しかし、一時中断していた「福祉用具における保険給付の在り方に関する検討会」が、早

くも八月に再開されました。福祉用具に関する今回の改正では、比較的小幅だったという意見が多かったようですが、次回については全く予断を許しません。貸与品目にするのか、購入品目に変更するのか、はたまた貸与価格に上限を設けたら等、レンタルシステムの根幹をなす事項について、議論されることになっていきます。

ご利用者にとっても保険者にとっても、そして事業者や我々福祉用具専門相談員にとっても、よりよいレンタルシステムとは何なのか、真剣に論議していただきたいと思えます。そのためにも、我々専門相談員や事業者が提供する福祉用具貸与サービスの質が、業界としてどうなのかが問われてきます。

一事業者や一個人の福祉用具専門相談員が質の高いサービスを提供しても、国全体での評価には結びつきません。業界全体のレベルアップが必要不可欠なのです。この命題実現のため、全国福祉用具専門相談員協会として真摯に立ち向かい、ご利用者やそのご家族の質の高い生活環境構築のため、ふくせいは努力していきたいと考えます。

本誌の福祉の宝庫

TEL: 03-6360-6691 FAX: 03-6369-6600
URL: <http://www.fukushu.co.jp/>

絶賛発売中 福祉用具を論じたロングセラーの最新版

「三訂 福祉用具の活用法」

京極 高宣 市川 河 共同監修

介護雑誌「地域ケアリンク」の記事から「福祉用具」関係を選びすぐって収録。福祉用具の意義や普及状況などから、種類別の福祉用具の正しい使い方・選び方にいたるまで、二十数名の専門家執筆陣が詳しく紹介していきます。福祉用具に対する理解を深め、上手に活用するための必読の書です。
第1部 福祉用具政策/第2部 日常生活用具/第3部 移動・移乗/第4部 バリアフリー環境での福祉用具の役割 A5判 定価：2,000円(本体価格)

